

東奥日報

2020年(令和2年)1月27日月曜日(10)

「津波防災知識役立てる」

八工大、岩手・種市高
連携授業の成果発表

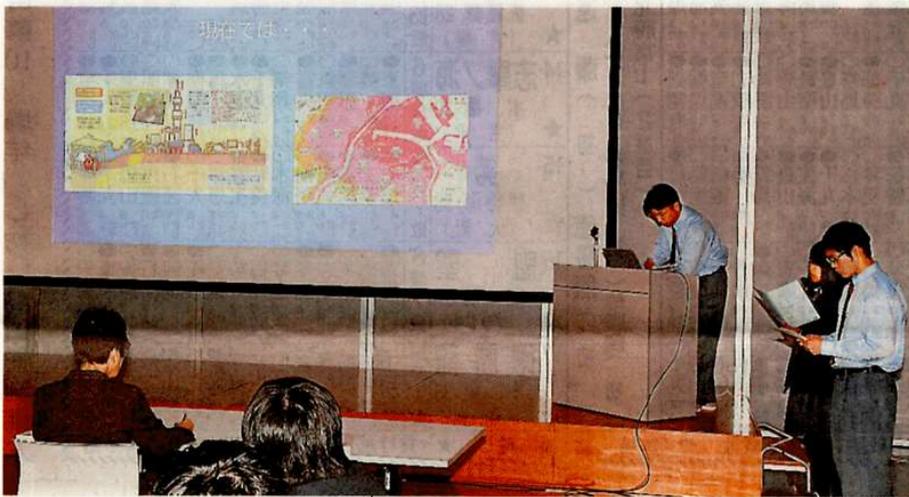
八戸

八戸工業大学と岩手県洋

野町の種市高校が高大連携事業の一環で実施した津波防災教育授業の成果発表会が20日、同大学で行われた。高校生7人が授業で学んだ

津波防災に役立つ知識などを報告した。

同校との高大連携事業は2018年から始まり、今年で2回目。今回は昨年10月から計4回の授業を行



津波防災教育の授業で学んだことを発表する種市高校生

の授業を行い、工学科土木建築工学科の佐々木幹夫教授らが指導した。種市高校は東日本大震災をきっかけに13年ごろ

から洋野町と階上町の小中学校で、高校生による出前授業を行っており、同連携授業での知識を生かしてもらう考え。

発表会で、高校生たちは大学が所有する津波発生装置を使った実験結果を示し「水深が深い場所ほど津波の速度が速く威力が大きい」などと発表。津波の威力などを予測するシミュレーションやプログラミングを体験したにも触れ、「ハザードマップの作成や津波の建造物への破壊解析に役立っている」とした。

同高校の小泉日菜さん(3年)は「高校にはない機械を使って自然災害について深く知ることができた。出前授業にも役立てたい」と話した。(高松拓輝)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」